

# がんと栄養

第18号  
2023年8月

年数回発行

発行：西神戸医療センターNST

今回のテーマは「**がんの治療と漢方薬**」です。

「がん治療中の症状に対して処方される漢方薬」についてご紹介します。

## 14. 半夏瀉心湯(はんげしゃしんとう)



生薬：ハンゲ、オウゴン、カンキョウ、カンゾウ、タイソウ、ニンジン、オウレン  
味：わずかに甘くて辛い

止瀉作用、抗酸化作用、抗炎症作用、疼痛緩和作用、抗菌作用などがあり、**がん化学療法による下痢・口内炎**に対しても処方されます。

含嗽（うがい）として使用する場合、独特のえぐみ・苦みがあり最初は少し「しみる」と感じる事が多いですが、最初は口に含む時間も1回5～10秒で大丈夫です。2～3日続けると慣れ、症状が和らいてきますので、1分ほど含んでみてください。1日3回以上を2週間程度続けてみるのがオススメです。元々が胃腸炎の薬ですので、口に含んだあと、そのまま飲み込んで大丈夫です（便秘気味の時はいするだけにしましょう）。

高齢者や複数の薬を服用している方は「うがい」での使用が安心です（副作用を防ぐため）。うがい薬の作り方は下記をご参照ください。ココアや抹茶で味付けされる方もおられます。



- 1 ホット用のペットボトルと半夏瀉心湯を3包用意する
- 2 ペットボトルに半夏瀉心湯を3包入れる
- 3 80度前後のお湯(約280mL)を入れる
- 4 蓋をしてシャカシャカ振る
- 5 しばらくするときれいに溶けきる

図1 ペットボトルによる半夏瀉心湯うがい薬の作り方

## 43. 六君子湯(りっくんしとう)

生薬：ソウジュツ、ニンジン、ハンゲ、ブクリョウ、タイソウ、チンピ、カンゾウ、ショウキョウ  
味：カンゾウ（甘草）による甘味とチンピ（陳皮；みかんの皮）



裏面へ続く！

食欲亢進ホルモンの分泌促進作用があり、食欲不振を中心とした胃部症状、特に食後早期の満腹感に有効とされています。**がん化学療法による悪心・食欲不振、胃部不快感**といった**消化器機能異常**やオピオイド（麻薬）や抗うつ薬、鉄剤などによる消化器症状にも処方されます。また、胃食道逆流症や手術後の胃の痛み・胃もたれにも処方されます。

六君子湯は漢方薬の中でも**飲みやすい**と言われています。「湯」の名の通りお湯に溶かして空腹時に内服するのがオススメです。夏向けに溶かした物を製氷機で凍らせる事もできます。

## 100. 大建中湯(だいけんちゅうとう)



生薬：カンキョウ、サンショウ、ニンジン、コウイ

味：カンキョウ（乾姜；生姜の根茎）とサンショウ（山椒）によるピリッとした辛みとコウイ（膠飴）による甘味

腸管運動亢進作用、腸管血流増加作用、抗炎症作用があり、**消化管手術後のイレウス（腸閉塞）の治療や予防、腸管通過障害による腹痛、便秘による腹部膨満感**に対して処方されます。

1回に2包ずつの指示で処方される事もあり、量が多くて大変なのですが、腸の症状緩和に必要な用量となっています。顆粒のまま水で服用するのではなく、温かいお湯で溶かして生姜湯に似た風味を楽しみながら服用していただければと思います。どうしても辛みが苦手な場合には炭酸水に混ぜると飲みやすく感じる方もいらっしゃいますのでお試しください。



## 107. 牛車腎気丸(ごしゃじんきがん)

生薬：ジオウ、ゴシツ、サンシュユ、サンヤク、シャゼンシ、タクシャ、ブクリョウ、ボタンピ、ケイヒ、ブシ末



痛みの刺激の伝達を遮断する作用や末梢神経周辺の血流を改善する作用があり、痛みや冷えの改善が期待されるため、**がん化学療法による末梢神経障害**に対して処方されます。

抗がん剤によるしびれは冷えると悪化するため、**ぬるま湯で服用するのがオススメです**。ブシによる強い辛みのため服用によって口腔内の違和感やピリピリ感を感じる場合もありますが、服用後にうがいや好みの物で口直しするなど試してみてください。

## お困りごとがあれば、お気軽にご相談ください

ここでご紹介した以外にも、「元気を補う」「身体の機能低下を改善する」など、様々な働きをもつ漢方薬があります（二日酔いに効く漢方薬も…）。「がんだからしょうがないのかも」と遠慮せず、お困り事があればいつでも当院スタッフへお気軽にご相談ください。

（担当 薬剤部 油屋恵）

バックナンバーはこちらから  
見ることができます

